

2014年6月4日

日朝遺骨問題の報道活動でギャラクシー賞優秀賞受賞

放送批評懇談会が優れた作品を顕彰する第51回ギャラクシー賞の「報道活動部門」で、報道局ニュース情報センターが行った『空白の68年 ～日朝両国に眠る遺骨～』一連の報道活動が優秀賞に選ばれました。入賞は6作品で、6月4日ウェスティンホテル東京で開催された贈賞式において、大賞1作品、優秀賞2作品、選奨3作品が発表されています。ギャラクシー賞「報道活動部門」での受賞は、第47回（2009年度）に『NEWS ゆう+「追及！終わらない年金問題」』の優秀賞以来、4年ぶりです。

作品名：「空白の68年 ～日朝両国に眠る遺骨～」一連の報道活動

主な番組：▼2013年5月27日（月）27:44~28:39 放送

ドキュメンタリースペシャル 「彷徨う遺骨 ～日朝 空白の68年」

▼2014年1月12日（日）05:20~05:50 放送

テレメンタリー2014 「還れぬ骨 ～日本に眠る北朝鮮遺骨～」

制作スタッフ：

プロデューサー 藤田貴久（朝日放送報道局ニュース情報センター）

ディレクター 南出拓平（朝日放送報道局ニュース情報センター）

カメラマン 利満正三（朝日放送報道局映像編集部）

編集 片山一晶（アイネックス）

ナレーター 宮城さつき（フリー）

報道内容：朝日放送は、2012年より太平洋戦争の戦中戦後に日本と北朝鮮で命を落とし祖国に還れぬままになっている遺骨に関する報道活動を続けています。遺骨問題の解決が日朝関係改善の糸口になると考えたからです。入手した平壤郊外にあった日本人墓地の地図などをもとに、北朝鮮政府と取材交渉を行い2012年6月に現地で墓地を確認。さらに、日本人遺族が墓参を望んでいることを伝え、10月には日本人遺族の戦後初の墓参を実現。同行取材しました。一方、日本国内に眠る北朝鮮遺骨の存在も取材。東京の祐天寺に保管されている北朝鮮出身者の遺骨の遺族をつきとめ、2013年10月平壤で独自取材を実現しました。

受賞コメント（南出拓平ディレクター）

取材・番組を通して「親（遺骨）を思う気持ちに国境はない」「遺骨問題をきっかけに日朝が歩み寄って欲しい」というメッセージをこめてきました。受賞を受けて、日本人遺族・北朝鮮遺族の素直な想いが伝わったかと思うと非常にうれしいです。今後も、日朝間に残るさまざまな問題点に光をあてていきたいと思えます。

報道活動部門の過去の受賞実績：

第 46 回（2008 年度） 優秀賞 消費者不在～幻の魚 クエ偽装

第 47 回（2009 年度） 優秀賞 NEWS ゆう+ 「追及！終わらない年金問題」

*ギャラクシー賞「報道活動部門」は 2002 年、テレビやラジオにおける優れた報道活動の顕彰が、放送の持つ社会的・文化的な意義やジャーナリズムとしての放送についての議論を深め、放送ジャーナリズムの活性化に結びつくことを強く願って創設された賞です。